



## 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年8月8日

上場会社名 日本山村硝子株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5210 URL <http://www.yamamura.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 幸治  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 荒木 陽一 TEL 06-4300-6000  
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	17,706	△8.8	301	△31.3	434	△29.4	2,803	586.4
25年3月期第1四半期	19,409	2.0	438	△62.2	614	△52.7	408	△48.5

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 4,593百万円 (215.1%) 25年3月期第1四半期 1,457百万円 (25.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	26.70	—
25年3月期第1四半期	3.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	94,354	57,458	60.8
25年3月期	93,278	53,519	57.3

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 57,411百万円 25年3月期 53,471百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.50	—	3.00	5.50
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	2.50	—	2.50	5.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	37,000	△0.8	450	△25.0	750	4.3	2,950	566.7	28.09
通期	71,000	0.7	300	162.5	650	25.9	400	91.0	3.81

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

通期業績予想につきましては、大阪工場閉鎖に伴う臨時損失と閉鎖後の資産利用による影響額が未確定のため前回予想を修正していません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期1Q	111,452,494株	25年3月期	111,452,494株
26年3月期1Q	6,443,126株	25年3月期	6,441,073株
26年3月期1Q	105,009,480株	25年3月期1Q	105,026,139株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

上記の予想に関連する事項は、[添付資料] 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 追加情報 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済対策や日本銀行の金融緩和政策に対する期待感から、円安や株高によって一部の企業収益環境や消費者のマインドに改善の動きが見られるなど、緩やかな回復基調が継続しました。

このような中、当社グループでは山村グループ創業100周年となる2014年に向けた4ヵ年の中期経営計画の最終年度を迎えております。この中期経営計画では「世界のYAMAMURAへ 一心と技術を伝えたい」のビジョンのもと、「パッケージング事業の再編と国際化」「ニューガラス事業の多角化」「新規事業とR&Dの推進」「グループコーポレート機能の強化」「人材基盤の確立」に取り組んでおります。

収益改善のため体制を見直した結果、当第1四半期連結会計期間よりセグメント区分について変更することといたしました。また、前年同期のセグメント情報については、平成26年3月期の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

#### ① ガラスびん関連事業

ガラスびん関連事業では、国内需要の漸減傾向が続く中、円安による原燃料価格の上昇や電力料金の高騰等が重なり、セグメント売上高は10,852百万円（前年同期比12.5%減）、セグメント利益は32百万円（前年同期比46.6%減）と減収減益となりました。

#### ② プラスチック容器関連事業

プラスチック容器関連事業では、従来非連結子会社であった山村ウタマ・インドプラスを連結対象としたものの、国内のペットボトルおよびキャップの売上は低調に推移し、セグメント売上高は2,854百万円（前年同期比14.8%減）と減収となりました。セグメント利益は、減価償却費、修繕費、労務費等の削減に注力したものの、72百万円（前年同期比78.0%減）と減益となりました。

#### ③ 物流関連事業

物流関連事業では、新規顧客の開拓に努めた結果、セグメント売上高は3,039百万円（前年同期比12.5%増）と増収となりました。しかし、新規受注案件の立ち上げ時の費用負担および既存業務の労務費上昇等のコストアップにより、セグメント利益は86百万円（前年同期比4.9%減）と減益となりました。

#### ④ ニューガラス関連事業

ニューガラス関連事業では、当社ニューガラスカンパニーの主力製品のひとつであるプラズマテレビ用粉末ガラスの出荷は低迷しましたが、主にスマートフォン、タブレット端末に使用されるセラミックスコンデンサ用粉末ガラスの出荷は伸長しました。また、子会社山村フォトニクス株式会社においても好調な通信分野を背景に光関連部品が伸長したため、セグメント売上高は960百万円（前年同期比0.9%増）と増収となりました。生産効率の改善、減価償却費の減少および労務費等のコスト削減を進めたことにより、セグメント利益は23百万円（前年同期は△53百万円）と増益となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は17,706百万円（前年同期比8.8%減）と減収となり、連結営業利益は301百万円（前年同期比31.3%減）と減益となりました。また、持分法による投資利益は241百万円（前年同期比9.4%増）となりましたが、連結経常利益は434百万円（前年同期比29.4%減）と減益となりました。特別利益に特別修繕引当金の戻入額として3,541百万円を計上した結果、連結四半期純利益は2,803百万円（前年同期比586.4%増）と増益となりました。

パッケージング事業の国際化として、平成25年6月28日に中国におけるワインびん等の製造・販売会社である秦皇島方圓包装玻璃有限公司の持分80%を取得しました。今後、同社を通じてさらなる国際事業の積極的展開を図ってまいります。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期における第2四半期連結累計期間の業績予想につきましては、平成25年6月11日公表の特別修繕引当金戻入額を勘案して、平成25年5月14日公表の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、平成25年6月11日公表の「特別利益の発生に関するお知らせ」および本日（平成25年8月8日）公表の「平成26年3月期第2四半期連結累計期間業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 追加情報

硝子溶解窯の修理に備えるため特別修繕引当金を計上しておりましたが、収益環境の変化を踏まえ、平成25年6月11日開催の取締役会において、当社及び連結子会社における硝子溶解窯の投資方針を戦略的に見直す決議を行い、今後は原状回復のための定期修繕ではなく、エネルギー効率や生産効率の改善を企図した新たな溶解窯を構築することとしました。

その結果、従来の特修繕引当金は、当第1四半期連結会計期間においてその全額を取崩し、特別利益に計上しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,807	5,487
受取手形及び売掛金	19,484	19,501
商品及び製品	6,996	7,159
仕掛品	446	506
原材料及び貯蔵品	2,407	2,370
その他	1,076	902
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	39,207	35,914
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,134	10,113
機械装置及び運搬具(純額)	6,419	7,195
工具、器具及び備品(純額)	752	850
土地	11,319	11,328
建設仮勘定	1,055	312
有形固定資産合計	29,680	29,800
無形固定資産		
投資その他の資産	320	300
投資有価証券	3,499	3,699
関係会社株式	18,188	22,882
その他	2,434	1,807
貸倒引当金	△52	△50
投資その他の資産合計	24,070	28,338
固定資産合計	54,071	58,439
資産合計	93,278	94,354

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,134	7,652
短期借入金	5,261	5,061
未払法人税等	195	312
引当金	597	274
その他	3,221	3,572
流動負債合計	16,409	16,872
固定負債		
社債	1,000	1,000
長期借入金	14,980	15,180
退職給付引当金	3,078	3,045
特別修繕引当金	3,541	—
資産除去債務	97	97
その他	652	699
固定負債合計	23,349	20,022
負債合計	39,759	36,895
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	14,074	14,074
資本剰余金	17,300	17,300
利益剰余金	25,667	27,819
自己株式	△1,222	△1,223
株主資本合計	55,820	57,972
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	661	802
繰延ヘッジ損益	△0	11
為替換算調整勘定	△3,009	△1,375
その他の包括利益累計額合計	△2,348	△560
少数株主持分	47	47
純資産合計	53,519	57,458
負債純資産合計	93,278	94,354

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	19,409	17,706
売上原価	16,015	14,658
売上総利益	3,393	3,047
販売費及び一般管理費	2,955	2,746
営業利益	438	301
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	38	44
持分法による投資利益	220	241
その他	78	56
営業外収益合計	338	343
営業外費用		
支払利息	84	77
支払手数料	—	72
租税公課	31	29
その他	47	30
営業外費用合計	162	210
経常利益	614	434
特別利益		
特別修繕引当金戻入額	—	3,541
特別利益合計	—	3,541
特別損失		
固定資産廃棄損	15	2
特別損失合計	15	2
税金等調整前四半期純利益	599	3,973
法人税、住民税及び事業税	133	331
法人税等調整額	56	836
法人税等合計	189	1,167
少数株主損益調整前四半期純利益	409	2,805
少数株主利益	1	2
四半期純利益	408	2,803

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	409	2,805
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△88	141
繰延ヘッジ損益	△52	11
為替換算調整勘定	△14	116
持分法適用会社に対する持分相当額	1,203	1,518
その他の包括利益合計	1,048	1,787
四半期包括利益	1,457	4,593
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,456	4,591
少数株主に係る四半期包括利益	1	2

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事 業	ニューガ ラス関 連事 業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	12,405	3,349	2,702	951	19,409	—	19,409
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	418	3,110	1	3,533	△3,533	—
計	12,408	3,768	5,812	953	22,943	△3,533	19,409
セグメント利益 又は損失(△)	61	330	90	△53	429	9	438

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額9百万円には、セグメント間取引消去28百万円、その他の調整△19百万円が含まれております。その他の調整は、報告セグメントに帰属しない全社費用と報告セグメントに計上されている営業外損益調整等です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関連 事業	ニューガ ラス関 連事 業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	10,852	2,854	3,039	960	17,706	—	17,706
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	478	2,880	1	3,360	△3,360	—
計	10,852	3,332	5,920	961	21,067	△3,360	17,706
セグメント利益	32	72	86	23	215	85	301

(注) 1. セグメント利益の調整額85百万円には、セグメント間取引消去33百万円、その他の調整52百万円が含まれております。その他の調整は、報告セグメントに帰属しない全社費用と報告セグメントに計上されている営業外損益調整等です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を次の報告セグメントとして記載する方法に変更しました。

当社グループのセグメントは、従来「ガラスびん関連事業」、「プラスチック容器関連事業」、「物流関連事業」、「ニューガラス関連事業」の4つの報告セグメントと「その他」に区分しておりましたが、「その他」に含まれていた当社エンジニアリング事業、星硝株式会社、株式会社山村製壺所を「ガラスびん関連事業」セグメントに含めることとしました。

これは、これまで個別に管理していたそれぞれの事業について、ガラスびんに関連する事業として一体で把握することにより、ガラスびん関連事業をより効率的に管理し収益の改善を目指すものです。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。